

2019 年 4 月 23 日(火)から 5 月 12 日(日)は第61回こどもの読書週間です。

■平成 31 年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰

この表彰は、子どもの読書活動において優れた実践を行っている学校・図書館・団体(個人)に対し、文部科学大臣がその実績をたたえ表彰するものです。平成31年度子どもの読書活動優秀実践校に、福島県では郡山市立大成小学校、福島市立余目小学校、国見町立国見小学校が、図書館に小野町図書館が、団体に読み聞かせの会おはなし「にゃーご」が選ばれました。これまで表彰された学校・図書館・団体(個人)については文部科学省のWebサイト(子ども読書の情報館)＞全国の取り組み事例)でご覧いただけます。

子どもの読書情報館 <http://www.kodomodokusyo.go.jp/>

■『平成 30 年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書』

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)平成 31 年 3 月

平成 30 年度の調査では、調査対象を 0 歳から満 9 歳の子供と同居する保護者とした「低年齢層の子供のインターネットの利用状況」の調査報告が加わり、0 歳から 17 歳までの年齢別インターネット利用状況等について報告されています。報告書は内閣府の Web サイトでご覧いただけます。

青少年のインターネット利用環境実態調査 (内閣府) https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/netjittai_list.html

報告 児童図書館員交流会「子どもと図書館 今、世界は—各国の取組から」

主催: 日本図書館協会・国際図書館連盟(IFLA) 児童・ヤングアダルト図書館分科会

2019年3月5日、日本図書館において、児童図書館員交流会が開催されました。

ヨールン・シスタッド氏(IFLA児童・YA図書館分科会議長、ノルウェーフェールデ公立図書館長)による「IFLA グローバル・ビジョン」と、IFLAの新ガイドライン『0歳から18歳までの子どものための図書館サービス』の説明と、日本、デンマーク、ドイツの子どもへ向けた図書館サービスの現状や、北米の児童・YAサービスにおける最近の動向についての発表がありました。

詳細については、『図書館雑誌』にて報告される予定です。

◆IFLAグローバル・ビジョン(IFLA Global Vision)

<https://www.ifla.org/node/11905>

※概要報告書“Global Vision Report Summary Top 10 Highlights and Opportunities”の日本語訳が「グローバルビジョン報告概要 図書館の注目すべき役割と目指すべき活動トップ10」として公開されています。

<https://www.ifla.org/files/assets/GVMultimedia/publications/gv-report-summery-ja.pdf>

◆IFLA Guidelines for Library Services to Children aged 0-18 / revised version 2018

<https://www.ifla.org/publications/node/67343?og=51>

報告 平成 30 年度児童サービス研究交流会

「ヤングアダルト世代への図書館サービスの在り方を考える」

主催：国際子ども図書館

2019年3月11日に、国際子ども図書館において、「児童サービス研究交流会」が開催されました。

「児童サービス研究交流会」は、毎回一つのテーマを決めて館種を超えて情報の交換・交流をし、児童サービスについて考えることを目的としており、今回が2回目の開催となります。一昨年度の第一回目のテーマが障がい者サービスで、第二回目の今回は「ヤングアダルト世代への図書館サービスの在り方を考える」でした。

交流会では、学校図書館、国際子ども図書館、公共図書館からのそれぞれの事例発表と、同志社女子大学学芸学部准教授・村木美紀先生からの講演があり、それを踏まえて、参加者同士の交流が図られました。

学校図書館からは、埼玉県立入間向陽高等学校主任司書・宮崎健太郎氏による「高校図書館から見たヤングアダルト世代と図書館」と題する発表がありました。高校生は大人以上に生活環境に格差が広がっていて、学校間でも格差が広がっていること、またその格差から図書館との距離感にふり幅があり、ある部分の高校生にとって、図書館はマイナスのイメージがあることなどを報告されていました。埼玉県立入間向陽高等学校を含め、埼玉県内の各高校図書館では、そのイメージを払拭するような積極的な取組みを多様に行っているということです。

国際子ども図書館からは、「中高生向け調べもの体験プログラム」の紹介がありました。国際子ども図書館では、実際に来館する子どものほとんどが個別に図書館に来るというより、実修学旅行や学習活動の一環として訪れるそうです。そのため、そういった機会を積極的に利用しようということで「中高生向け調べもの体験プログラム」行っているそうです。「中高生向け調べもの体験プログラム」は、調べもの対戦、調べものクイズ、館内探索スタンプラリー、クイズ出題対決、ストーリー創作、POP広告作成5つのコースがあり、どれも図書館でしかできないような練られた工夫した内容になっています。

大阪市立図書館からは、「書評漫オグランプリ」の紹介がありました。ビブリオバトルは、ヤングアダルト世代には一人で人前で話すのが難しく、また、この世代の開催希望の行事のアンケートでは、地域性もあるせいか「お笑いコンテスト」が多数を占めたため、2つ掛け合わせて「書評漫オグランプリ」をはじめたそうです。2018年に第7回を迎えたそうですが、試行錯誤の結果、マスコミに取り上げられる、普段来ない層の来館増加、子供の読書の質的な成果等がみられたそうです。ちなみに、この書評漫オコンクールの様子は、大阪市立図書館のホームページから誰でもご覧になることができます。

事例報告では、それぞれ違う館種からの取組みが紹介されていました。図書館の良くないイメージを壊す取組み、何らかの機会を活用することで図書館についてより深く知ってもらう取組み、YA世代の関心を図書館に向ける取組みと、それぞれ別方向からのアプローチですが、館種を問わず今図書館が抱えるYA世代へのサービスの課題に対して、とても的確な活動報告がなされていました。

速報 第 65 回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

小学校低学年

- ・『魔女ののろいアメ』 草野あきこ/作 ひがしちから/絵 PHP研究所 1,200 円
- ・『スタンリーとちいさな火星』 サイモン・ジェームズ/作 千葉茂樹/訳 あすなろ書房 1,400 円
- ・『心ってどこにあるのでしょうか？』 こんのひとみ/作 いもようこ/絵 金の星社 1,400 円
- ・『もぐらはすごい』 アヤ井アキコ/作 川田伸一郎/監修 アリス館 1,500 円

小学校中学年

- ・『かみさまにあいたい』 当原珠樹/作 酒井以/絵 ポプラ社 1,200 円
- ・『子ぶたのトリュフ』 ヘレン・ピーターズ/文 エリー・スノードン/絵 もりうちすみこ/訳 さ・え・ら書房 1,400 円
- ・『そうだったのか！しゅんかん図鑑』 伊知地国夫/写真 小学館 1,300 円
- ・『季節のごちそうハチごはん』 横塚真己人/写真と文 ほるぷ出版 1,500 円

小学校高学年

- ・『ぼくとニケ』 片川優子/著 講談社 1,400 円
- ・『かべのむこうになにがある？』 ブリッタ・テッケントラップ/作 風木一人/訳 BL出版 1,600 円
- ・『マンザナの風にのせて』 ロイス・セパバーン/作 若林千鶴/訳 ひだかのり子/絵 文研出版 1,500 円
- ・『もうひとつの屋久島から 世界遺産の森が伝えたいこと』 武田剛/著 フレーベル館 1,500 円

中学校

- ・『星の旅人 伊能忠敬と伝説の怪魚』 小前亮/著 小峰書店 1,600 円
- ・『ある晴れた夏の朝』 小手鞠るい/著 偕成社 1,400 円
- ・『サイド・トラック 走るのニガテなぼくのランニング日記』 ダイアナ・ハーモン・アシャー/作 武富博子/訳 評論社 1,700 円

高等学校

- ・『この川のむこうに君がいる』 濱野京子/作 理論社 1,400 円
- ・『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ あなたがくれた憎しみ』 アンジー・トーマス/作 服部理佳/訳 岩崎書店 1,700 円
- ・『ヒマラヤに学校をつくる カネなしコネなしの僕と、見捨てられた子どもたちの挑戦』 吉岡大祐/著 旬報社 1,400 円

募集要項など詳細は全国学校図書館協議会のウェブサイトにて公開されています。

公益社団法人 全国学校図書館協議会＞コンクール・募集＞青少年読書感想文全国コンクール

<http://www.j-sla.or.jp/contest/youngr/>

福島県立図書館企画展示のお知らせ

フィンランドの子どもの本 ～フィンランドと日本の外交樹立 100 周年～

期間 2019 年 5 月 10 日(金)～6 月 5 日(水)

場所 福島県立図書館 展示コーナー

フィンランド・日本の外交樹立100周年を記念して、「フィンランドの子どもの本」を展示します。フィンランドの子どもの本といえば、「トペリウス童話」や、トーベ・ヤンソンの「ムーミン」の物語がよく知られていますが、この他にもフィンランドの国内外で評価されている児童文学はたくさんあります。今回は、当館で所蔵するフィンランドの様々な児童作家の本を展示し、長い冬や、クリスマス、湖や森など、フィンランドの風土ならではの物語を紹介します。